



# 命 ひびき合い

確かな学力  
たくましい身心  
豊かな心  
を育てます

※月行事は、第3号でご紹介したようにHP上に数ヶ月先まで掲載しておりますのでご覧ください

## 夏休みは学校 → 地域・家庭にお子さんをお戻しします

「担任の先生に、本当に感謝しています、とお伝えください」これは、6月10日（金）の津軽三味線×マリンバ・パーカッションコンサート（一番上の写真）の際に、津軽三味線奏者の高橋浩寿さんがおっしゃられた言葉です。上から二番目の写真で「津軽じょんがら節」を演奏している女の子は、浩寿さんのお弟子さんです。この子は、これまで皆と一緒に人前で演奏することはあっても、一人で舞台上立つことにはなかなか自信が持てなかったそうです。それが、今回北小で皆の前で堂々と演奏することができました。浩寿さんは「今回の体験のおかげで、これからはいろんな演奏の機会を与えることができるようになりました。有り難うございました」とも言われました。



見事な師弟の共演「津軽じょんがら節」

三枚目の写真は、6月1日～2日の6年生長崎修学旅行の一コマです。長崎原爆死没者追悼平和祈念館で子ども等が平和集会を行い、亡くなった方々に黙祷を捧げています。ここでは、今西忍（しのぶ）様から被爆体験を聞くこともできました。1945年8月9日、当時今西さんは、8歳だったそうです。6年生は、7月13日、平和教育・人権教育ブックトークを開催し、絵本の読み聞かせをとおして、平和の大切さを1年生から5年生に訴えました。素晴らしい活動をしてくれた6年生に拍手を送ります。



皆が安心して暮らせる世の中をつくります

北鹿島小学校では、子ども等に日々、価値ある体験をさせていきたいと、一学期前半の教育活動に汗を流してきました。これから39日間の夏休みに入ります。是非、人や自然、たくさんのこととの出会いをとおして、一回り成長する機会を子ども等に与えていただきたいと思います。

## いじめ・教職員の指導に関するアンケート ご協力有り難うございました

いじめと教職員の指導に対するアンケートへのご協力、有り難うございました。アンケートは、管理職が開封し、その全てに目を通させていただきました。現在、下記の手順でいじめの未然防止・早期解決を進めているところです。

- ① 6月30日から「教育相談週間」を実施しました。学級内の全ての児童を対象に担任が、安心して学校生活を送れているのかについて、面談を行っています。

- ② 担任が面談でいじめの事実の確認を終えた後、担任と管理職で再度いじめの確認をします。

現在の「いじめ」の定義は「本人が嫌だと感じている」「そのいじめの事実が確認できる」この二つがそろえば「いじめ」と認めていきます。以前より、いじめのハードルは低くなっています。これは、全国でいじめにより命を失う子どもが後を絶たないからです。この定義では、どの子もいじめの被害者・加害者になる可能性があります。文部科学省は、いじめゼロの学校よりも、いじめを認知する学校を評価する、と発表し、佐賀県のいじめ認知件数はここ数年、どんどん増えています。北鹿島小学校でも、小さなことからいじめを認知して、いじめを許さない学校の風土をつくっていきます。

- ③ 担任は、いじめの加害児童に対し、指導を行います。ただ謝罪すれば良い、のではなく、本人の言動や行動について改善できる、人として成長できるように本人とじっくり話し合います。

- ④ 指導した内容について、7月25日から始まる個人面談で保護者に説明をします。

加害児童の保護者に対しても、説明を行い、本人の言動や行動の改善すべき点については、家庭からの協力をお願いします。

- ⑤ 認知した「いじめ」事案については、職員全員で最低でも3ヶ月間は継続観察していきます。



毎日している牛乳仕分け作業



上級生が毎日しているのを見て真似して水やりする一年生

ネットに子育てを任せず、人との上手なつきあい方を教えてください  
ネット利用の場合は、家庭でルールを必ず決めてください

いじめアンケートや日頃の子どもの生活観察から気になる事実は、言葉の暴力や実際に手を出す暴力が、まだ子ども等の学校生活の中で見られることです。「どうすれば暴力はなくなるのでしょうか」このようなご意見を保護者の方からいただきました。家庭での子ども等の生活は、温かさであふれていますか？

学校では、朝登校した後や昼休みの後、校内を回っていると、先生方が膝をついて、子ども等の目を見て、話している姿をよく見かけます。「あなたは、手が当たっただけだと言っているけれど、相手の人からしたらそれはたたかれたということですよ」「あなたは、人の物をかくして冗談だったと言っているけれど、相手の人からしたらそれはとても悲しいことですよ」このようなことばが聞かえてきます。

ネットゲームの中では、自分の思った通りになりますが、現実世界のリアルな人とのおつきあいは、自分の思い通りには決してなりません。人と人との間で、北鹿島の子ども等は育てていきたいと職員一同汗を流しています。「フォートナイト(年齢制限15歳以上)」や「エイペックス(年齢制限17歳以上)」を「家に帰って、宿題をして、ご飯を食べたら毎日している」と言う子等がいます。「ゲームの時のように人を叩いてみたい」と言って本当にやろうとする子を止めた時もありました。「きみは、自分より力の弱い人ばかり叩こうとしているけど、きみのお母さんが、力の強い人から叩かれたら嫌でしょ。きみはそれと同じことをしているんだよ」この話を聞いた後から、この子は、叩くのをがまんして友達と仲良くするように今は育ってきています。立派です。しかし、小さな子どもにこんな思いをさせる前に、15禁や17禁のオンラインゲームは、当たり前ですが決してさせないように、任天堂の「みまもり設定」等、保護者の方の知恵で使用制限をかけていただくことが絶対に必要だと思います。



図書委員会が企画して盛り上げた「図書館祭り」6月13日～